

2025年度大学院博士前期課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻 仏教学専修	選択問題

(1) 次の問題のいずれかを選択して解答してください。

- ① 『法華経』の方便品と如来寿量品の思想について詳しく説明してください。
- ② 『摩訶止観』における十境十乗観法について詳しく説明してください。

(2) 次の項目のうち4つ選び、それぞれ簡潔に説明してください。

- ① 『選択本願念仏集』
- ② 三宝
- ③ シャーリプトラ
- ④ 化儀四教
- ⑤ 南山律宗
- ⑥ 妙楽大師（湛然）
- ⑦ 『スッタニパータ』
- ⑧ 阿羅漢
- ⑨ 『四教義』
- ⑩ 親鸞

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

(1)

①『法華経』の中心的思想は、一仏乗の思想と久遠の釈尊の思想である。『法華経』において一仏乗の思想が最初に提示されるのが、方便品であり、久遠の釈尊が提示されるのが如来寿量品である。方便品では、冒頭で仏の智慧は仏にしか理解できず、声聞たちにはできないものであると、仏の智慧の偉大さが強調される。当初説法を拒否していた釈尊は、舎利弗の三度の請願によって、説法を決意し、仏がこの世界に出現する目的が、衆生に仏の知見(智慧)を開き、示し、悟らせ、その道に入らせることであること、すなわち衆生を成仏させることであることを明らかにする。これは一仏乗の思想と呼ばれる。如来寿量品では、直前の従地涌出品で弥勒菩薩から提示された釈尊がいつ地涌の菩薩を教化したのかという問題に答える形で、釈尊は今世ではじめて成仏したのではなく、五百塵点劫という遠い過去にすでに成仏しており、衆生を教化してきたこと、また残りの寿命はその倍あることが示され、仏の寿命が永遠に近いものであることが明らかにされた。また永遠の寿命をもつ釈尊は方便によって入滅する姿を見せるが、信仰のあるものには靈鷲山にいる釈尊に出会うことができることも説かれている。(500字)

②『摩訶止観』の第七章の正修止観章では、十種の対象界に対して、それぞれ十種の観察の方法を用い、その対象界の真実ありのままの様相を観察することが説かれており、これによって、菩薩の初住の位に入ることができるとしている。「十境」は、陰界入・煩惱・病患・業相・魔事・禪定・諸見・増上慢・二乗・菩薩のことであり、これらは真実を観察することを妨げる十種の代表的なものとされる。これらに対処するに観察の方法として提示されるのが「十乗」の観法である。「十乗」とは、観不思議境・発真正菩提心・善巧安心止観・破法遍・識通塞・道品調適・対治助開・知次位・能安忍・無法愛のことである。『摩訶止観』では、「十境」として提示される妨げるものそれぞれについて、十乗観法を適応させるように論じられている。

(335字)

(2)

①『選択本願念仏集』

法然が1198年(建久9)に撰述した著作である。全十六章からなり、各章は浄土三部経や善導の著作などから典拠となる文を引き、それに対して法然の解釈を加えるという形式で構成される。法然は本書を数少ない弟子にしか書写させなかったが、彼の没後に刊行され、聖道門諸宗を誹謗しているかのように理解できる文を含んでいたため、明恵の『摧邪輪』などの厳しい批判を招き、大きな論争を引き起こすことになった。(190字)

② 三宝

仏・法・僧の三つを指し、仏教者が帰依し依り所とする根本となるもの。仏(ブツダ)は仏教において最も重要とされる仏教の教主、法(ダルマ)はその教え、僧はそれを奉ずる人々の集団であり、この三つを宝にたとえたもの。(103字)

③ シャーリプトラ

懷疑論者サンジャヤの弟子であったが、目連と一緒に釈尊に帰依し、サンジャヤの弟子250人とともに集団で釈尊の教団に参加した。仏十大弟子の一人で、智慧第一の弟子として知られ、釈尊の代わりに説法できるほど信任が厚かったが、釈尊より年長で先に逝去した。(120字)

④ 化儀四教

天台宗の教判説の一つで、仏の教えを形式や方法の違いによって、頓教・漸教・秘密教・不定教の四種に分類したもの。智顛以前の南地・北地の教判説では、頓教・漸教・不定教の三時説が用いられており、『法華玄義』ではこれを批判的に受容し、不定教を顕露不定教(不定教)・秘密不定教(秘密教)に展開して四教としている。(150字)

⑤ 南山律宗

道宣の説に基づき、『四分律』を重視し菩薩戒として三聚浄戒の受持を主張した中国の学派。この道宣を祖とする一派は道宣が終南山で活躍したところから「南山律宗」と呼ばれている。道宣の孫弟子にあたる鑑真は754年（天平勝宝6）に来朝し南山律宗と相部宗を日本に伝えた。（125字）

⑥ 妙楽大師（湛然）

中国唐代の天台学僧。天台智顛を初祖とすると第六祖に数えられ、天台三大部（『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』）に対する注釈書である『法華玄義釈籤』『法華文句』『摩訶止観輔行伝弘決』などを著し、中国天台宗の復興をなしたため中国天台宗の中興の祖とされる。（125字）

⑦ 『スッタニパータ』

南伝仏教の経蔵（小部）に収められるパーリ語の経典。スッタは経、ニパータは集成の意で、「経の集成」を意味する。全体は五章からなり、この中に七〇余りの小さな経を含むので、このように名づけられている。最古層の仏説を伝承している。（111字）

⑧ 阿羅漢

サンスクリット語アルハンの音写であり、応供と漢訳される。尊敬・施しを受けるに値する聖者の意。インドでは、一般的に尊敬されるべき修行者を指した。初期仏教・部派仏教では修行者の到達し得る最高位を示す。学道を完成し、もはやそれ以上に学ぶ必要がないので阿羅漢果を無学位という。（134字）

⑨ 『四教義』

『四教義』は、智顛が晋王広に三度にわたって維摩経疏を提出したなかで、第一回目に献上された「玄義」十巻の離出本とされる。佐藤哲英氏によれば、「玄義」十巻が離出されて、現行の『四教義』十二巻、『三観義』二巻と、散逸した『四悉檀義』となったと推定される。『四教義』という書名にある四教とは、蔵教・通教・別教・円教の四教であり、釈尊の説法の高低浅深を四段階に分類したものである。（188字）

⑩ 親鸞

親鸞はいわゆる鎌倉新仏教の祖師の一人で浄土真宗の開祖である。法然のもとで、自力雑行を棄てて他力本願に回心した。念仏弾圧で遠流となり、還俗して越後に流されて以後、非僧非俗を貫いた。主著に『教行信証』がある。他力信心による往生を説き、その信心は如来から与えられるものとした。彼の、自らの内なる煩悩を深く見つめ、それ故に弥陀の救いが与えられるとする思想は、近代になって唯円の『歎異抄』に収録される法語とともに改めて高く評価されている。（214字）

出題意図：

Purpose of Question：

仏教学を専攻する大学院生として必要な知識を修得しているかを評価すること。